

II 調査結果および考察

1 盲・聾・養護学校における児童・生徒の障害の実態

佐島 毅 菅井裕行 石川政孝 後上鐵夫 大崎博史

1-1 盲・聾・養護学校における児童・生徒の障害の実態に関する結果

表1-1は、盲・聾・養護学校の小・中・高等部における児童・生徒の障害の実態を示したものである。表では、各学校種ごとおよび全学校の総計を、単一障害、知的障害単一、重複障害に分けて人数と割合を示した。また、重複障害の内訳について、共通の分類によって各学校種ごとにその人数と割合を示した。

これら結果を児童・生徒の重複障害の割合の視点からみると、以下のようにまとめることができる。

- ①盲学校では、小学部45.0%、中学部37.9%、高等部23.5%が重複障害である。
- ②聾学校では、小学部19.8%、中学部19.7%、高等部10.6%が重複障害である。
- ③肢体不自由養護学校では、小学部71.2%、中学部68.1%、高等部64.0%が重複障害である。
- ④病弱養護学校では、小学部34.0%、中学部26.7%、高等部41.1%が重複障害である。
- ⑤知的障害養護学校では小学部34.4%、中学部29.0%、高等部14.7%が重複障害である。
- ⑥重複障害の内訳をみると、ほとんどが知的障害との重複障害、あるいは三障害以上の重複障害で占められている。
- ⑦全体で、単一障害は19.5%、知的障害養護学校の単一障害が46.6%、重複障害が33.9%となっている。

なお、重複障害の内訳において、重度知的障害というカテゴリーがある。これは、都道府県によっては指導上十分に手厚い配慮が必要な児童・生徒であるために重複障害学級の対象としている場合があり、その人数をせている。

1-2 考 察

障害の重複している児童・生徒に対しては、自立活動を主とする教育課程を編成することができる。

このため今回、自立活動の指導に関する実態調査を実施するにあたり、児童・生徒の重複障害の実態について明らかにすることが重要と考え、それに関する調査項目を設けた。この結果は、盲・聾・養護学校全数を対象として同一の形式で実施したことから、全国の重複障害児童・生徒の実態を知る上で参考になると考える。

一方、今回の調査の結果が、実際の重複障害児童・生徒数の実態をどこまで反映しているかについては、慎重に判断する必要がある。たとえば、視覚障害と聴覚障害の重複障害児童・生徒数（小・中・高等部）は、本調査では28名であるが、土谷・菅井（1999）の調査では287名（うち25名は幼稚部）となっている。このうち、視覚と聴覚以外に障害を併せ有する児童・生徒、すなわち今回の調査で「三障害以上」に分類された児童・生徒を除いた人数は、47名である。調査年度・回収率が異なることから単純に比較はできないが、数値からは1.5倍以上の開きある。この二つの調査の違いは、前者が学校単位の調査であるのに対して、後者は児童・生徒個表による悉皆調査であるという点である。

学校単位の学級在籍ベースの調査か個別悉皆調査かによる調査データの違いについて、盲学校を例に別の研究で比較したものが、表1-2である。文部科学省特殊教育資料（文部省、2002）の重複障害学級在学者数から盲学校児童・生徒の重複障害の実態についてみると、幼稚部31.8%、小学部45.6%、中学部39.9%、高等部7.9%となっている。これに対して、全国の盲学校に対して5年おきに個別の悉皆調査を行っている筑波大学の研究グループの報告（香川、2002）によれば、同年度の盲学校における重複障害の実態は幼稚部62.7%、小学部55.1%、中学部48.5%、高等部13.6%である。

こうした調査データによって違いがみられる理由として、以下のような点が考えられる。

- ①本調査で得られた重複障害児童・生徒数に関する

表1-1 盲・聾・養護学校における児童・生徒の障害の実態

学校	学部	数値区分	単一	知的養護 単一	重複合計	重 複 障 害 内 訳																総合計						
						視+知	視+肢	視+聴	視+病	聴+知	聴+肢	聴+病	聴+情	肢+知	肢+病	病+知	知+情	知+言	重度知的	三障害以上	その他		不明					
合計	小学部	実数合計	4492	7482	9805	309	49	10	7	333	48	7	2	4715	121	1318	39		42	2438	15	352	21779					
		%	20.6	34.4	45.0	1.4	0.2	0.05	0.03	1.5	0.2	0.03	0.01	21.6	0.6	6.1	0.2		0.2	11.2	0.1	1.6	100					
	中学部	実数合計	3475	6430	6035	202	14	8	5	196	32	2		2674	85	941	58	1	20	1455	13	329	15940					
		%	21.8	40.3	37.9	1.3	0.1	0.1	0.03	1.2	0.2	0.01		16.8	0.5	5.9	0.4	0.01	0.1	9.1	0.1	2.1	100					
高等部	実数合計	5104	17329	6902	244	24	10	12	167	27	4		3086	129	1083	103	4	17	1535	6	451	29335						
	%	17.4	59.1	23.5	0.8	0.1	0.03	0.04	0.6	0.1	0.01		10.5	0.4	3.7	0.4	0.01	0.1	5.2	0.02	1.5	100						
総合計	実数合計	13071	31241	22742	755	87	28	24	696	107	13	2	10475	335	3342	200	5	79	5428	34	1132	67054						
	%	19.5	46.6	33.9	1.1	0.1	0.04	0.04	1.0	0.2	0.02	0.003	15.6	0.5	5.0	0.3	0.01	0.1	8.1	0.1	1.7	100						
盲学校	小学部	実数合計	406		294	226	10	2	6													50	700					
		%	58.0		42.0	32.3	1.4	0.3	0.9														7.1	100				
	中学部	実数合計	295		167	124	4	4	2														33	462				
		%	63.9		36.1	26.8	0.9	0.9	0.4															7.1	100			
高等部	実数合計	1562		275	173	14	8	10															38	1837				
	%	85.0		15.0	9.4	0.8	0.4	0.5															2.1	100				
合計	実数合計	2263		736	523	28	14	18															121	2999				
	%	75.5		24.5	17.4	0.9	0.5	0.6															4.0	100				
聾学校	小学部	実数合計	1221		302			8		218	10	5	2										31	28	1523			
		%	80.2		19.8			0.5		14.3	0.7	0.3	0.1											2.0	1.8	100		
	中学部	実数合計	859		211			4		147	8	2												12	38	1070		
		%	80.3		19.7			0.4		13.7	0.7	0.2													1.1	3.6	100	
高等部	実数合計	1202		143			2		102		3													11	25	1345		
	%	89.4		10.6			0.1		7.6		0.2														0.8	1.9	100	
合計	実数合計	3282		656			14	0.00	467	18	10	2												54	91	3938		
	%	83.3		16.7			0.4	0.00	11.9	0.5	0.3	0.1													1.4	2.3	100	
肢体不自由養護学校	小学部	実数合計	1952		4824			39		1	38			3347	89	3								1252	55	6776		
		%	28.8		71.2			0.6		0.01	0.6			49.4	1.3	0.04								18.5	0.8	100		
	中学部	実数合計	1241		2644			10			24			1848	50										677	35	3885	
		%	31.9		68.1			0.3			0.6			47.6	1.3										17.4	0.9	100	
高等部	実数合計	1719		3058			10			27			2188	66	2										707	58	4777	
	%	36.0		64.0			0.2			0.6			45.8	1.4	0.04										14.8	1.2	100	
合計	実数合計	4912		10526			59			1	89			7383	205	5									2636	148	15438	
	%	31.8		68.2			0.4			0.01	0.6			47.8	1.3	0.03									17.1	1.0	100	
病弱養護学校	小学部	実数合計	913		470			1				2													253	50	1383	
		%	66.0		34.0			0.1				0.1														18.3	3.6	100
	中学部	実数合計	1080		393			3																		155	45	1473
		%	73.3		26.7			0.2																			10.5	3.1
高等部	実数合計	621		434			2				1															203	19	1055
	%	58.9		41.1			0.2				0.1															19.2	1.8	100
合計	実数合計	2614		1297			6				3															611	114	3911
	%	66.8		33.2			0.2				0.1															15.6	2.9	100
知的障害養護学校	小学部	実数合計		7482	3915	83				114				1368		1183	39		42	852	15	219					11397	
		%		65.6	34.4	0.7				1.0					12		10.4	0.3		0.4	7.5	0.1	1.9				100	
	中学部	実数合計		6430	2620	78				49				826		786	58	1	20	578	13	211					9050	
		%		71.0	29.0	0.9				0.5					9.1		8.7	0.6		0.2	6.4	0.1	2.3				100	
高等部	実数合計		17329	2992	71				65				898		935	103	4	17	576	6	317					20321		
	%		85.3	14.7	0.3				0.3					4.4		4.6	0.5		0.1	2.8		1.6				100		
合計	実数合計		31241	9527	232				228				3092		2904	200	5	79	2006	34	747					40768		
	%		76.6	23.4	0.6				0.6					7.6		7.1	0.5	0.01	0.2	4.9	0.1	1.8				100		

るデータは、重複障害学級在籍として認定されている児童・生徒数を基礎として回答した学校が多いと考えられ、その認定に関する手続きや基準は、現状では各都道府県によって異なっている。そうした状況で、一般に重度の重複障害児童・生徒は重複障害認定されるのに対して、軽度の重複障害では重複障害学級の対象として認定されないケースがあると考えられる。すなわち、視覚障害と聴覚障害の重複障害児を例にすると、弱視・難聴の児童・生徒は個別悉皆調査では視覚障害と聴覚障害の重複障害として正しく人数にカウントされるが重複障害学級在籍にはなっていないというケースである。

②また、知的障害のある弱視の場合を例にすると、盲学校に在籍している児童生徒では重複障害学級在籍となるが、知的障害養護学校では0.2程度の視力であると重複障害学級在籍にはなっていないケースもあると考えられる。すなわち、在籍する学校種別によって、重複障害の認定に違いがあることも要因としてあると考える。

また、上記の他に、実際の重複障害児童・生徒数の実態を捉える上で、以下の点に留意が必要と考える。

障害が重度の児童・生徒では、視覚や聴覚の障害が適切に評価され発見されていないケースが多くあると推測される。

障害が適切に評価され発見されていないという点については、障害が重度の児童・生徒だけでなく起

こる可能性がある。たとえば、盲学校在籍児の聴覚障害、知的障害養護学校在籍児の視覚障害、というように、その学校種の専門以外の障害に対しての対応レベルによって、適切な評価がされないケースもあると考える。

このように、実際の重複障害児童・生徒数の実態については上記のような点を考慮し、継続的なデータの収集により、より確実な現状把握が必要である。一方、その上で今回の調査において盲聾養護学校において重複障害児童・生徒3分の1以上を占めていること、各学校に様々なタイプの重複障害児が在籍していることが明らかになったことは、自立活動の指導内容およびそれを含めた教育課程を考える上で重要な資料となると考える。

文 献

香川邦生 (2002): 全国盲学校児童生徒の重複障害の実態, 柿澤敏文・永井伸幸・香川邦生、全国盲学校及び小・中学校弱視学級児童生徒の視覚障害原因等に関する調査研究、平成13年度科学研究補助金基盤研究 (C) (2) 研究成果報告書、35-45..

土谷良巳・菅井裕行 (1999): 視覚聴覚二重障害を有する児童・生徒の実態調査報告書、国立特殊教育総合研究所重複障害教育研究部。

文部科学省 (2001): 特殊教育資料 (平成12年度版)、文部科学省初等中等教育局特別支援教育課。

表1-2 学校単位の在籍学級ベースの調査と個別悉皆調査の比較 (平成12年度データ)

学部	数値区分	文部省(2002)			香川(2002)			
		合計	単一障害	重複障害	合計	単一障害	重複障害	無記入
幼稚園	実数合計	228	156	72	228	78	143	7
	%	100	68.4	31.6	97	34.2	62.7	3.1
小学部	実数合計	693	390	303	692	302	381	9
	%	100	56.3	43.7	99	43.6	55.1	1.3
中学部	実数合計	491	298	193	478	242	232	4
	%	100	60.7	39.3	99	50.6	48.5	0.8
高等部	実数合計	2677	2474	203	2543	2186	347	10
	%	100	92.4	7.6	100	86.0	13.6	0.4
小・中学部計	実数合計	1184	688	496	1170	544	613	13
	%	100.0	58.1	41.9	98.9	46.5	52.4	1.1
総合計	実数合計	4089	3318	771	3941	2808	1103	30
	%	100	81.1	18.9	99	71.3	28.0	0.8